



平成 30 年 3 月 1 日(木)
練馬区立開進第四小学校
校長 佐々木 秀之

開四小だより

3月号

感謝の心 2

校長 佐々木 秀之

暦の上ではもうすぐ啓蟄を迎えようとしています。今年は、大雪が降ったため、2月はほとんど外で遊ぶことができませんでしたが、ようやく校庭の氷も解け、子供たちは元気に外で遊んでいます。

さて、先日 25 日に第 23 回平昌冬季オリンピック競技大会が閉幕しました。金 4、銀 5、銅 4。日本が獲得したメダル数は、これまでの冬季オリンピックで最多となりました。

男子フィギュアスケート「羽生結弦選手」、女子 500m スピードスケート「小平奈緒選手」、女子スピードスケートパシュート「菊池彩花選手・佐藤綾乃選手・高木菜那選手・高木美帆選手」、女子スピードスケートマススタート「高木菜那選手」の金メダルの他、日本人選手の活躍に感動しました。

しかし、今回の冬季オリンピックで一番感動したのは、メダルの色、数よりも、アスリートたちが見せた「感謝の心」でした。

羽生選手は、「これまでたくさんの方々を支えられて生きてきました。本当にスケートだけじゃなくて、こうやってたくさんの方々を育てていただいたことを本当に感謝しています。ありがとうございます」と試合後にコメントを寄せています。

小平選手は、すべての組が終了後、李相花選手が涙を流しているところに近寄り、肩を抱いてお互いの健闘を称え合いました。

高木美帆選手は、「チーム全員の力がないと成し遂げることはできなかった金メダル。自分の力だけでなく皆だったから取れた金メダルだと思うので感無量」と話しました。

高木菜那選手は、「今まで支えてくれた方々や、応援してくれた方々の応援があったからこそ、自分の力になって最後まで滑り抜くことができたのだと思います。チーム JAPAN の力があってこそ金メダルだったと思います。本当に応援ありがとうございます」と試合後に語っています。

どの選手の言葉にも、何かを成し遂げるために最も大事な事は、決して諦めないこと、そして相手をリスペクトし、応援してくれる人への感謝の気持ちをもつことだと今回のオリンピックがあらためて教えてくれました。3月9日には、平昌冬季パラリンピック競技大会が開幕します。アスリート達は、また感動を世界中に届けてくれることと思います。

子供たちは、学年末に向け、今年度の目標を達成しようと日々努力しています。今回のオリンピックが教えてくれたように、最後まで決して諦めることなく、一人一人の目標を達成してくれることを願っています。